



バイクツーリングに魅了されて



愛車は深紅のホンダCB1100

「ツーリングクラブに入らない？」

職場の先輩の呼びかけに飛びついたのは、私が中型バイクを購入して間もない頃、クラブ発足から3年目のことだった。メンバーたちと意気投合し、バイク熱はヒートアップ、長距離ツーリング参加、大型免許の取得、ついには大型バイクも購入していた。

クラブの主な活動は、ゴールデンウィークの九州、四国、沖縄、徳之島そして年に数回の奄美周遊ツーリングのほか安全祈願祭、新年会、花見、バーベキューなど。

そんなバイクツーリングの魅力とは、一体何だろう？

●バイクツーリングは五感を刺激する。

奄美大島から九州へ向かうフェリーの中での潮の香りに始まり、高速道路での爽快感、森の中を走り抜ける時の涼風、峠での季節はずれの寒さと雪、高原では若草と牛さんの匂いと続く。渋滞では猛烈な暑さとメットの中の汗の匂い。SA(サービスエリア)ではそこでしか味わえない地元特産品。旅は、このように記憶される。全てが、快適かどうかは別にして(-_-;)

●バイクは平等である。

ハーレーだろうが原付だろうが、雨の中ではヌレヌレ。革ジャンもTシャツもずぶ濡れ。



ツーリングクラブの仲間たち
(サービスエリアにて)



奄美の夏は絶景の宝庫
(妻とのツーリングにて)



旅で出会った友人たちと
(大分湯布院にて)



奥田 敏文

奄美市総務部総務課長

【おくだ としふみ】鹿児島県大島郡大和村生まれ。琉球大学卒業後、1985年旧名瀬市役所入庁。徴収業務に長く携わり4月より現職。2005年からツーリングクラブ所属。趣味はバイク以外に、読書、カメラ、釣りなど。妻と実母と三毛猫一匹とともに暮らす。

「雨になりましたね。」

そこからライダーの会話が始まり、年齢を超えてバイク談義に花が咲く。見かけも、年齢も、初心者も、ベテランも、関係ない。ただ、バイクが好きだという一点で平等である。

●バイクツーリングはRPG(ロールプレイゲーム)である。

バイクが突然故障する。渋滞で予定が大きく遅れる。道に迷う。仲間とはぐれる。見知らぬ人に助けをもらう。宿で意気投合する。食べて飲んで温泉に入る。

出会った友人と途中まで同行する。宿屋の主人との交流が長く続く。つまり、素晴らしい出会いがある。仲間と思いができる。共に旅した夫婦の絆が深まる。

これがバイクツーリングの醍醐味だと思う。私の最終目標は北海道へのツーリング。それは、日本一周と同義語になってしまうのだが…。

●奄美ならではのバイクツーリングの魅力

奄美の夏はまばゆい、最高の景色となる。コバルトブルーの海沿いの道、深緑に覆われた亜熱帯の森林をゆったりと走る。黄金色に輝くサトウキビ畑のうねりを走る。一周250km以上もある奄美大島の道には、一体いくつの原色が散りばめられているのだろう。

* * *

今年、離島では初となるご当地ナンバーもできた。奄美ナンバーの愛車、深紅のホンダCB1100を駆り、これからも、仲間たちや妻と長くバイクツーリングをしてみたい。

あなたも共に奄美を走ってみませんか？